



# 呼人水芭蕉通信



↑ 暖かい日が続いた4月の網走市。景色も、モノクロだった冬から、色鮮やかな春へと移り変わりました。網走で桜より先に春を感じさせる植物と言えば…そう、ミズバショウです。暖かさに誘われ、例年よりも早く、見ごろを迎えました。

(NHK北海道WEBから)

\*2024年4月15日放映(NHKローカルニュース)

～国内最大の群生地で見頃～



↑ 4月、網走市は暖かかった…というより、熱いと感じる日までありました。網走市の4月の最高気温の平均値は、9.1度なのですが、ことしは最高気温が20度を超える日が、なんと4日もあったんです。平均気温も平年よりも3度以上高くなっていて、かなり暖かかったことが、わかると思います。

(NHK北海道WEBから)

## ◎令和6年度活動報告（ホームページの運用を開始しました）

コロナの流行、清水晶子前会長の死亡、会員の高齢化が重なり、会の活動がしばらく停滞していました。新たな会の立て直しをすべく浅利栄治会長のもと、5人のメンバー（役員）で会が再スタートしています。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

### <保全地の状況 春の清掃>

今年の保全地・春の清掃作業は、4月20日（土）の予定でしたが、悪天候だったため、4月27日（土）に延期しました。

スケジュール変更などにより、例年通りNGKの若者たちや長生クラブの参加が難しくなり、各自個別に、落ちた枝の除去、側溝の清掃、歩道の清掃などを行いました。

### <陸地化対策工事の下見>

6月27日（木）、業者立ち会いのもと保全地の状況確認、陸地化対策について相談しました。網走市環境部・環境課や地元町内会との連携も考えながら整備に着手します。

### <ホームページの運用開始>

右記QRコード（<http://abashiri.sakura.ne.jp/yobito>）の読み込みにて⇒  
『水芭蕉通信』1号～20号まで、ご覧いただけます。

ご意見や感想など、Eメールにて [kazu@yobito.jp](mailto:kazu@yobito.jp) よろしく申し上げます。



## ○保全地の意義を再確認

網走市はオホーツク沿岸に位置し、5つの湖水を持つ国内で希少なウェットランド（湿地帯）です。ラムサール条約（国際的に重要な湿地に関する条約）の意義を再認識したいと思います。「網走湖・水と緑の会」は、網走湖にアオコやアオシオの発生、周辺にゴミ処理場やゴルフ場が建設されるという時期に、自然保護を考える市民や漁業関係者ほか支援者有志により結成スタートしました。

## ○網走の水芭蕉は湿地のシンボルとして

保全地を流れる小川には呼人丘陵の雪解け水が注ぎ、湿地には春を告げる水芭蕉が次々と咲き始めます。群生地には、チューリップ園や芝桜公園などの観光地とは異なる特有の価値があります。

## ○守られた身近な自然（呼人水芭蕉通信号外・2005年4月29日から）

網走は網走川沿いに開けたが、このヤチダモ林にはその原風景が残っている。私は数年前、呼人開拓100年記念事業の際、数人の仲間と葦と柳で坪み小屋（開拓小屋）を建てた。ちょうど、雪が溶け水芭蕉が咲いていたころである。囲炉裏を作ったが、囲炉裏の中にも水芭蕉が芽を出した。林は小さな流れに囲まれていて、夏には蛍が飛び交い、秋には鮭が上ってくる。小川にはウキゴリ、エゾアカガエル、エゾサンショウウオ、林にはキタキツネやエゾリスなどが生息している。こうした街中の小さな自然が、今どれほど私たちの暮らしに大切か、その思いが「呼人水芭蕉群落保全の碑」の建立に込められている。今の子供たちが将来、おじいちゃん、おばあちゃんの名前をこの記念碑の中に見つけてくれることを関係者は願っています。（森の家・清水 敦）



「呼人水芭蕉群落保全の碑」  
支援者の名前が刻まれている

2024年7月2日呼人水芭蕉群生地と隣接地の開墾工事

## ◎令和6年度総会報告

5月20日(月)呼人コミュニティセンターにて、令和6年度「網走湖・水と緑の会」総会を開催しました。会員総数22名中、出席者6名、委任16名で総会は成立、議長選出のあと議案書に沿って、議事進行しました。事業報告、会計報告、監査報告に続き、来年度予算について検討、令和5年度の活動報告(水芭蕉通信19号参照)、令和6年度における活動は繰越金を充当し、会費徴収は行わないなど、すべての議事を終えて、閉会しました。(総会開催案内に返信のあったコメントは別途掲載)

高齢化が進む会の今後の運営について、網走市や観光協会へ委ねることができないか交渉する、若い別組織・団体へ包括・委譲できないかなど意見がありました。いずれにしても後世へバトンタッチするまで、以下の役員で活動することになります。どうぞよろしくお願ひします。

### <役員>

会長・浅利栄治、副会長・本間公三、副会長・高橋和憲、事務局長・大槻 茂、  
顧問・アドバイザー 清水 敦、監査・田中勝則、監査・竹内 勇  
理事・及川光義、及川百合子、藤原幸一

## ◎会長から (運営活動の移譲先について)



会長・浅利栄治

網走湖・水と緑の会は、発足から20年以上が過ぎ、その間に呼人地区の「水芭蕉群生地」の買い取りや長年に渡り整備活動を行い、網走湖周辺の豊かな自然保護に、大きな成果を上げて参りました。

今年度の総会では昨年度に続き、議題として「会員の高齢化に伴う会の運営をどのように進めるか」、という課題が取り上げられ、会の弱体化が顕著になって来た昨今、今後の「活動」と「方針」について真剣に討議致しました。討議を踏まえ、微力ながら群生地の保全活動の移譲先を模索しながら東奔西走しているところです。具体的にはDMO網走市観光協会様、網走市観光課様、コネクトリップ様、NGKオホーツク様などに、今後の手入れや管理など引き受けのお願いをしてまいりました。現在のところ検討してくださっている団体は、NGKオホーツク様のみとなっております。

最近の群生地は、地形の地盤隆起によると思われる乾燥化(陸地化)が部分的に生じ始めているため、土壌改良も緊急の課題となってきました。加えて、今春から群生地に隣接する土地の大規模な開発が始まり、群生地のヤチダモの林などにも大きな影響が出て、このままでは樹木はもちろん水芭蕉の生育にも影響が生じる懸念があります。

一刻も早く運営活動の移譲先を決定し、新体制に群生地の保全を託し、豊かな自然を守る取り組みに期待したいところです。

隣接地の大規模開発が進む⇒



### ◎今後の湿地保全の取組み

- ①乾燥 陸地化の進行を遅らせる
- ②保全地の水位を上げる
- ③陸地化を加速させる陸性宿根植物
- ④オニシモツケ バイケイソウの除去

宿根性植物は夏に空中から養分を取り、秋にその養分を地中に戻すから、夏に刈り取りその循環を絶つ。刈り取りは8月中旬。そのまま放置すると雪解けまで残り景観の妨げにもなる。

・会員募集中です！年一回/呼人水芭蕉通信の発行

・申し込み/問い合わせ先 TEL/FAX 0152-48-2223 文責・清水敦 高橋和憲